



### 日本人の死亡原因の現状

我が国の国民の死亡順位は、昭和三十三年以降第一位脳卒中、第二位ガン、第三位心臓病であり、いわゆる成人病と呼ばれる病気がその上位を独占し、現在に及んでいます。

厚生省の調査によりますと、昭和五十一年の総死亡数七十万三千二百七十人を一〇〇%としますと、脳卒中は十七万三千七百四十五人で二四・七%、ガンは十四万八千九百三十三人で二〇・〇%、心臓病は十万三千六百三十九人で一四・七%となっており、この三疾患の合計は五九・四%と国民の全死亡者の六割近くが成人病で死亡しています。しかも、この総死亡に対する成人病の死亡割合は、昭和十年では一七・六%であったのが昭和三十年三六・五%、昭和四十年五〇・七%、昭和五十年五八・三%と著しく増加しており、我が国の人口構造の老齢化ともなって成人病による死亡は今後も増加するものと思われれます。

このような現状の中で特に注意をひくのがガンです。年齢別に死亡順位を見てもみますと、三十歳から六十九歳まではガンが死亡原因の一位となっていることです。この年齢のことを「ガン年齢」といいますが、この年齢層におけるガンによる死亡数を見てもみますと、男は四人に一人、女は三人に一人がガンで死亡しています。

昭和五十一年のガンによる死亡者数は

図2. 日本人のガン



このような状況で、国や県、対ガン協会等においては、当面の目標として第一に胃ガンを半減しよう。第二に子宮ガン死亡を〇にしよう。という目標を掲げ、ガン征圧運動を展開し、集団検診の普及によって早期発見、早期治療の徹底を図っているところですが、その結果としてかなり成果は上っていますが、未だ目標には程遠いといわなければなりません。また、肺ガンや乳ガンについても早急な対策の樹立が必要となってきました。

### 熊本県民のガンによる死亡の現状

本県におけるガンによる死亡も(図3)に示すとおり年々増加の傾向を辿っています。昭和二十五年にガンによる死亡者が人口十万人に対して七一・三であったものが昭和三十五年には一〇一・七、昭和四十五年には二九・四、昭和五十一年には一四七・五と死亡率を更新しており、二千五百三十人が尊い生命をガンに奪われています。

これをガンの部位別で死亡割合(表2)を見ますと、男女とも胃ガンが一番

表2. ガンの性別・部位別死亡割合(昭和51年)

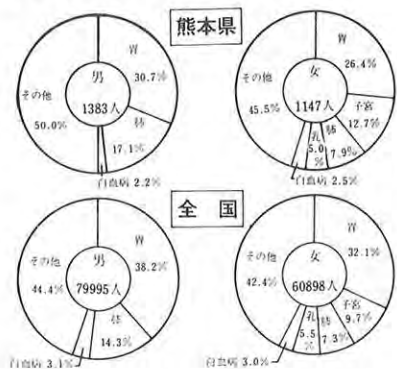
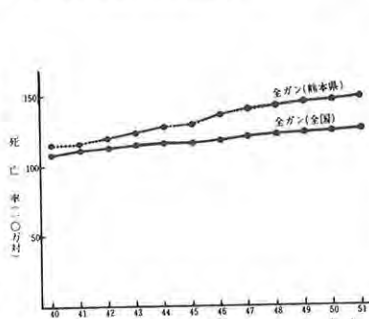


図3. ガン死亡率の年次推移(人口10万対)



多く、全体の約三分の一を占めており、次いで、男では肺ガン、女では子宮ガンとなっています。この部位別死亡割合を全国平均と比較してみますと胃ガンは熊本男三〇・七%、女二六・四%、全国男三八・二%、女三二・一%と男女とも全国の割合を若干下回っておりますが、子宮ガンについては熊本男二二・七%、全国九・七%と全国平均を上回っております。子宮ガン死亡率をみますと人口一〇

十四万八千九百三十三人ですが、これは時計の針が三・七分進む毎に一人の割合で日本のどこかで、だれかがガンで死んでいる計算になります。約十四万の家庭で働き盛りの社会的にも家庭的にも大黒柱である年齢層の人々がガンに命を奪われているのです。

日本人にいちばん多いのは男も女も胃ガンです。厚生省調査の部位別死亡割合をみますと男は胃ガンが約三八%で次いで肺ガン、肝臓ガンの順、女は胃ガンが約三二%で次いで子宮ガン、肺ガンの順となっています。(図2)

表1 死因順位の年次変動

年次	死因	死亡数(人口10万対)				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
昭和41年	全国	脳卒中 173.8	ガン 110.9	心臓病 71.9	老衰 44.6	不慮の事故 43.0
	熊本	脳卒中 209.6	ガン 116.3	心臓病 88.4	老衰 67.2	不慮の事故 41.4
昭和42年	全国	173.1	113.0	75.7	43.3	41.9
	熊本	212.0	120.3	97.1	60.1	40.3
昭和43年	全国	173.1	114.3	79.9	39.7	39.2
	熊本	219.2	124.2	108.5	55.1	39.4
昭和44年	全国	174.4	116.2	81.7	42.2	37.1
	熊本	216.2	127.5	107.1	49.3	39.5
昭和45年	全国	175.8	116.3	86.7	41.9	38.0
	熊本	217.6	129.4	122.5	57.2	41.6
昭和46年	全国	169.6	117.7	82.0	40.2	34.0
	熊本	210.1	136.6	108.0	49.3	43.3
昭和47年	全国	166.7	120.4	81.2	39.7	30.7
	熊本	212.5	139.9	116.6	51.8	44.9
昭和48年	全国	166.9	121.2	87.3	37.2	31.3
	熊本	213.3	141.6	126.5	48.5	46.0
昭和49年	全国	163.0	122.2	89.8	33.0	32.6
	熊本	196.1	143.5	128.8	41.1	40.3
昭和50年	全国	156.7	122.5	89.1	33.6	29.9
	熊本	192.0	145.6	126.8	41.8	37.6
昭和51年	全国	154.5	125.3	92.2	32.6	28.0
	熊本	188.5	147.5	130.9	46.2	33.8

図1. 年齢層からみた死亡順位

年齢	1位	2位	3位
全年齢	脳卒中	ガン	心臓病
25-29	自殺	事故	ガン
30-34	ガン	自殺	事故
35-39	ガン	自殺	事故
40-44	ガン	脳卒中	事故
45-49	ガン	脳卒中	心臓病
50-54	ガン	脳卒中	心臓病
55-59	ガン	脳卒中	心臓病
60-64	ガン	脳卒中	心臓病
65-69	ガン	脳卒中	心臓病
70-74	脳卒中	ガン	心臓病

万が一六・〇と全国に比し極めて高い率を示していることは特に注意を要するものと考えます。また、肺ガンについても本県の場合、全国平均を上回っており、毎年増加の傾向を示していることは今後の対策上注意を要します。

### ガンの発生原因とガンの特徴

ガンの発生原因はまだ明らかではありません。普通の細菌性の病気は外から強盗が入ってきたようなものですが、ガンは家族の中に道楽息子が出たようなもので、自分の正常細胞がガン細胞という狂った細胞に変化し、その細胞がどんどんふえて、自分の大切な家をくいつぶしてしまうようなものです。

このガン細胞をつくる原因として幾つ

かの発ガン物質も見出されており、食品添加物や薬品の規制、あるいは発ガン物質を取り扱う化学工場の管理などにより、発生原因の除去も積極的に進められています。

ガン発生は世界の国々によっていろいろ特徴があり、ガン細胞をつくる原因も①化学物質②放射線③ウイルスなどがいわれていますが、この辺からガンの原因究明の糸口があるかも知れません。

このため胃ガンに関する国際的な情報センターが世界保健機関(WHO)の要請により昭和四十五年に国立ガンセンターに設置され更にガン研究の国際的協力をすすめるために昭和四十七年から我が国も国際ガン研究機関(IARC)に参加しています。ガンの原因究明を一日も早く達成してほしいものです。

ガンには四つの特徴があります。その一つはその異常なふえ方で、ひとたびガン細胞がふえはじめると非常なスピードで、周囲の正常な組織をおしのけてふえつづけ、異常な増殖力を示します。第二は転移といわれる飛火です。はじめできたところのガン細胞がはがれ落ち、リンパの流れや血管に入ってほかの場所に飛火してそこにまたガンをつくりまします。もとのガンを手術してとってしまっても、この転移が残っていると命とりになることが多いのです。

第三の特徴は、ガンにかかるとだんだ